



別海町長
曾根 興三

ておめでとうございます 願いたします

明けましておめでとうございます。町民の皆様には、平成30年の新春を心健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃より町政運営の推進に對しまして、温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私が、町長に就任してから2回目の新春を迎えました。就任以来町民の皆様のご支援のもと、私の町政に對する熱い思いである「子育て世代への応援」「老後の安心」「活力ある産業の維持」の3点において、「速やかに実行しなければならぬこと、実行できること」について積極的に検討し、取り組みを進めてまいりました。

この間、町民の皆様の心強いご理解と協力により各事業も順調に進めることができ、一定の成果を挙げる事ができたものと思っております。新年を迎え、改めて皆様と共につくるふるさとづくりに決意を新たにしております。

昨年を顧みますと、9月に北海道を横断した台風18号は、本町にも大きな被害をもたらしました。特に、野付半島沖では数か所において秋サケ定置網が全壊するなど甚大な被害が発生し、今後の漁業経営にも大きな影響を与える状況となりました。

この台風被害に對し、漁家経営の安定化と漁業の振興を図るため、被災した定置網の撤去費用等について支援を行うことにいたしました。

また、昨年12月末に町立別海病院小児科医が退職されましたが、現在、新たな医師確保に向けて全力を挙げて取り組んでおります。

一方、明るいニュースとして、「ファイターズ北海道179市町村応援大使」2017年の対象市町村に本町が選ばれました。この応援大使は、北海道日本ハムファイターズの選手が地域の方々と交流を図りな

がら、まちづくり・まちおこしを応援するもので、別海町応援大使として中島卓也（なかしまたくや）選手と上沢直之（うわさわなおゆき）投手の2人が、昨年一年間、札幌ドームなどで特産品のプロモーションやイベントへの協力など、本町をアピールしていただきました。昨年11月には、本町を訪れてツーショウを行い、多くの町民の方々と交流を深めました。応援大使の期間は昨年12月で終了していますが、引き続きお二人を含め北海道日本ハムファイターズ日本一奪還に向けて応援していきたいと思っております。

また、本町出身のスピードスケート選手の郷里里砂さんが、ワールドカップや全日本距離別選手権において好成績を収められ、本年2月の平昌冬季オリンピックへの出場が期待されています。本町から2人目となるオリンピック選手が誕生した際には、町を挙げて応援したいと思っております。

国内の状況に目を向けますと、昨年9月には北方領土の元島民や政府関係者でつくる墓参団が、中標津空港から航空機を使った初めての空路墓参により、国後、択捉両島を訪問しました。高齢になられた元島民の方々の身体的負担を少しでも軽減するため、航空機を利用した墓参を継続していくことが重要であると国においても認識されています。

また、北方四島における共同経済活動に関して、日口首脳会談で、観光や海産物の養殖など5項目で事業の具体化を目指すことで合意され、官民調査団を北方領土に派遣するなど、共同経済活動の動きが加速してきています。本町におきましても隣接地域として、将来の平和条約締結に向けた取り組みとして積極的に関与してまいります。

さて、このような状況の中、本町にとって平成30年度は、第6次総合計画の最終年度となる第10次実施計画期間となります。これまで取り組んできた政策や事業の成果をしっかりと

り検証し、平成31年度から始まる第7次総合計画の策定に向けて、主要施策を着実に推進していかなければなりません。

最重要課題であります農業の担い手確保対策や良好な漁場環境の整備による守り育てる漁業の推進、中小企業支援のための各種振興施策や地域資源を活用した体験型観光の構築など、これまで以上に関係機関との連携を強化し産業振興対策の充実を図ってまいります。

また、子育て世代への応援と老後の安心を提供する取り組みも重要な施策であります。子育て支援の充実については、子ども・子育て支援事業計画に基づき、地域の皆様と行政が力を合わせ、安心して子どもを産み、子育てができる環境の充実に努めます。

高齢者福祉に関しては、高齢者の方々が住み慣れた地域で健やかで充実した老後を過ごすことができるよう、地域全体で支える環境づくりに取り組んでまいります。

平成27年度から取り組んでいます「矢別演習場周辺まちづくり構想」については、基本構想、基本計画を基にして、構想の主要施策となる（仮称）生涯学習センターの建設に向けて、今年3月までに実施計画を策定しますが、引き続き多くの町民の皆様の参加をいただきながら、本町の特性を活かした魅力あふれる計画を策定していきます。

「笑顔あふれる豊かさ実感のまちべつかい」創造の集大成に向け、町民の皆様の声を聞き、皆様と心をついにし、職員ともども全力で諸課題の解決に向けて取り組む所存であります。どうぞ、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、新たな年が、町民の皆様にとりまして、健やかで笑顔あふれる年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



別海町議会議長

松原政勝

町民の皆様 あけまして 本年もよろしくお

明けましておめでとございます。町民の皆様におかれましては、健やかに清々しい初春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃から町議会の活動に対し、温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内では大手製造業の粉飾決算や品質管理における不祥事が相次ぐなど、世界に誇ってきた「メイド・イン・ジャパン」の信頼を大きく失墜させ、消費者の安全が脅かされる事態が相次ぐ一年でありました。そんな中、スポーツや将棋の世界では、中学生が大人顔負けの活躍ぶりを発揮して驚きと感動を生み、日本の未来に明るい夢と希望を与えていただきました。

また、災害に目を向けますと、7月の九州北部の豪雨災害では死者数が35人にも上るなど、自然の猛威は、確実に毎年襲ってくるものであることを改めて実感させられたところです。

本町においては、一昨年と比べ降雨量は少なく、悪天候に悩まされることなく台風シーズンを通り越せるものと期待を寄せたところでしたが、9月18日に発生した台風18号は、文教施設、道路、農作物や営農施設、とりわけ定置網漁具などに甚大なる被害をもたらしました。災害復旧対策には、行政及び関係機関において取り組まれておりますが、関係者の方々に心よりお見舞い申し上げます。次第であります。

さて、我が国の経済は、5年に亘るアベノミクスの取り組みの下、名目GDPは過去最高の水準に達したと言われる一方で、潜在成長力の伸び悩み、将来不安からの消費の伸び悩み、中間層の活力の低下といった深刻な課題を抱えており、その成果が全国津々浦々まで浸透しているとは、実感できない状況にあります。

地方においては、依然として人口減少に歯止めがかからない状況下にあつて、医療・介護・子育て分野における地方の責任は拡大し、社会保障、教育、社会資本整備など住民に身近な行政サービスに関連する経費は、年々膨らむ傾向にあります。

また、頻発する災害への備えや人口減少社会における長期的な視点を踏まえた取り組みなど、厳しい財政状況の中で必要な住民サービスを安定的に提供していくため、公共施設等の総合的かつ計画的な管理が求められています。

本町においても、これらの諸課題が基幹産業や財政運営に大きな影響を及ぼすことは明らかであり、産業振興や町民福祉の向上を図るために、増大する行政需要に対して今後どのように予算を編成していくか、極めて難しい現状に直面していると言えます。

(仮称)生涯学習センター建設計画の具現化や地元高等学校への教育支援、子ども子育て支援事業や各種産業振興施策など山積している地域課題に対し、第6次総合計画の総仕上げとして町民の皆様の知恵や創

造とともに取り組んでいく必要があります。

こうした中、チェック機能や政策形成機能等を担う議会の果たす役割はますます重要になっていきます。町民の皆様が開かれたわかりやすい議会を目指し、昨年11月に町内3会場で実施した議会報告会では、参加いただいた皆様からの意見や提言をより深く伺うことができるよう、全体報告会後に分会方式による意見交換を新たに導入し、町政や議会に対する思いを一人ひとりから直接聞くことができました。寄せられましたが意見等は、十分に検討して議会運営に反映させていくこととしています。本年も、議会報告会に加え意見交換会も積極的に開催するなど、時代に即したさらなる取り組みを進めてまいります。

別海町議会として、これからも安全で安心して暮らせる活力ある別海町の実現を目指し、議員全員で力を合わせ取り組んでまいりますので、どうか本年も、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

町民の皆様にとりまして、平成30年がより実りのある飛躍の年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

